

2 0 1 9 年 度

第 1 回

入 学 試 験 問 題

国 語

試験時間 45分

注 意

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子さつしを開いてはいけません。
- 問題は□から□の8ページにわたって印刷してあります。足りないページや、印刷が分かりづらいところがあった場合は、手をあげて監督者かんとくに申し出てください。
- 解答用紙と問題冊子の決められた場所に受験番号を記してください。
- 答えはすべて解答用紙の決められた場所に記入してください。
- 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。
- 試験終了後、監督者の指示に従い問題冊子と解答用紙を提出してください。

佼成学園女子中学校

受験番号

--

□ 次 の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「僕」(新一)は小学校六年生。事情があつて、父の親友で、九州の田川という町に住む野上源一郎に預けられることとなつた。夏休み、「僕」は野上源一郎の息子である同級生の竹雄(竹ちゃん)と、海沿いに住む竹雄の親戚のヨナ爺の元を訪れる。そこで竹雄と共にヨットを製作し、完成させる。

僕らはがっちりと握手を交わした。ヨットが完成したのだ。船体に清めのお神酒をかけ、小屋から外へ引き出す。デッキにマストを立て、ロープや滑車を取りつける。ペンキも乾き、白と赤に塗り分けられた船体が、午後の日差しを受けてきらきらと輝く。あとは船尾にヨットの名を描き入れるだけだ。竹ちゃんの一年以上にわたる労苦と、僕の二十日あまりの手助けの成果が、海に出る準備を終えて、目の前に静かに横たわっている。

傲慢にさえ見える船首の屹立と、まわりに微笑みを投げかけるようにゆるく撓っていく船体の柔和さとが、見事な調和を保ちながら後方へと流れていく様は、思わず声をあげたくなるほど、美しい安定感に満たされている。安定感にはしかも、満々とした力が秘められていて、いつでも荒海として知られる玄界灘へ乗り出していく、静かな血気が背後に隠されている。凜としたその姿を見ていると、竹ちゃんと僕がこのヨットを造つたのではなく、舟自身が自らの力で今、形を成したのが分かる。船名も、すでに決まつている。ニライカナイ号。

ニライカナイとは、沖繩地方の方言で、海の彼方を意味している。海の彼方には、楽土があつて、神様が住んでいる。神様は年に一度、沖繩にやってくる。それがウンジャミ、海神祭だ。ヨナ爺からその話を聞

いたとき、僕らはすぐにヨットの名を、ニライカナイ号にすることに決めた。

ニライカナイ。その言葉の持つ響きに魅せられたから。だが、それだけではない。竹ちゃんはきつと将来、これよりもっと大きなヨットを駆つて、文字通り海の彼方へと冒険の旅に出るだろうから、僕もなんらかの形で、例えばヨナ爺が言ってくれたような、物書きとしての空想力や創造力によつて、海の彼方へ行きたいと思つている。そんな願いもこめて、僕らのヨットをニライカナイ号と命名したのだ。

竹ちゃんが目を細めて言う。「できたなあ。やつとできたなあ」

僕が答える。

「ああ、できた。ほんとにできた」

僕らは空を見あげ、ため息をついた。空から夏の色がだんだんと消えつつあつた。互いに顔を見合わせた。いつまでも完成の喜びに浸っている余裕はなさそうだった。思いのほか帆の製作に時間がかかってしまひ、肝心の夏休みが終わりに近づいていたのだ。ここに来る前に僕らは、野上源一郎からきびしく、八月二十七日までには絶対、田川に戻つてこいと言いわたされていた。

二十七日に帰るとなると、今日を含めても、正味あと五日しか残つていないから、下手をすると夏休みの最大の目的である、ヨットで航海することも、無人島でキャンプすることも断念しなければならなくなる。それではなんのために、今まで苦勞してきたのか分からない。

ある日ヨナ爺が、いつになく強い口調で言った。

「いいか、たとえヨットができあがつてん、二人だけですぐ海には出ら

れんぞ。舟にはな、それぞれ独特な癖ちいうもんがある。だけん、何日か走らせてみることは、それを呑みこむんは難しい。とくにな、帆で走る舟はそれがなおさらきつい」

沖繩生まれのヨナ爺は、子どものころからサバニと呼ばれる。クリ舟に乗っていたので、帆で走る楽しさも、難しさも充分に心得ていたのだ。だから二、三日漁を休んで一緒にヨットに乗りこみ、三人でいろいろと試してみようと言うのだった。横で話を聞いていたヨナ婆が、ぼつりと呟いた。

「あんたらは他所様からの大事な預かりもんや。だけん、もしあんたらになんかあったら、わたしらは死んでお詫びせなならん」

ぐつと胸にきた。涙が出そうになった。僕はスナ以外の人間に、これほど心配されたことはない。それでも、計画を諦める気にはなれなかった。数ヵ月前の自分を思うと不思議な気がする。気が小さい上に傲慢で、自分の意に添わないことがあると、たちまちつむじを曲げてすねてしまう。そのくせ意志が弱く、なんでもすぐに飽きて、中途半端で投げ出していた僕が、いくらヨナ爺とヨナ婆の頼みであっても、最初からやめるつもりはなかったのだ。ましてや竹ちゃんは、なおさらだった。

ヨナ爺の言うことはよく分かる。ヨナ婆の心配も痛いほど理解できる。でも、二日も三日も試走していたんでは、僕ら二人だけでヨットを操る時間も、無人島で過ごす日々もなくなってしまう。夏休みは来年もある。焦ることはない。大人はそう言うかもしれないが、来年の僕はもうなっているか分からない。年が明けて四月になれば中学生になる。中学生はもう子どもではないから、まだ子どもでいられるこの夏のうちに、やり遂げておきたいのだ。

45

50

55

60

65

僕はマストに帆を取りつけ、慎重にあげる。海から軽やかな風が吹きつけてきて、帆がわずかに孕む。ロープや滑車が小さく軋み、船体がかすかに傾ぐ。僕は船べりに腰かける。風が出発を促し、空が手招きする。決断するしかない。無人島へ行くかどうかの決断ではなく、
X という、身を切られるようなやる瀬ない決断だが、僕らは互いに強く頷き合って腹を決めた。

(上野哲也『ニライカナイの空で』)

- ※1 傲慢……えらそうにすること。
- ※2 屹立……堂々とそびえ立つこと。
- ※3 玄界灘……九州の北西部に広がる海。
- ※4 凜と……姿が引き締まっていること。
- ※5 楽土……楽園のこと。
- ※6 クリ舟……木をくりぬいて作った舟。
- ※7 スナ……「僕」の身の回りの世話をしてくれていた人。

70

問一 ――線部A・Bの語句の意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 「目を細める」

- ア 深く考えこんでしまうこと。
- イ 喜びから笑顔えがおになること。
- ウ 好意をもって世話をすること。
- エ そのものに特別に注意を向けること。

B 「つむじを曲げる」

- ア 全体のまとまりを乱してしまうこと。
- イ 気分をそこねて従わないこと。
- ウ 思い上がった行動をすること。
- エ 人に意地悪な行動をすること。

問二 ――線部①「ヨットが完成したのだ」とありますが、ヨットを作つ

た目的は何ですか。本文中の言葉を用いて、二十五字以内で答えなさい。

問三 ――線部②「舟自身が自らの力で今、形を成したのが分かる」と

ありますが、これはどのようなことを説明しようとしたものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 威厳いげんのあるヨットの様子に、製作した「僕」たちの情熱が乗り移り、船がまるで人間のような生き生きとした表情を見せていたということ。

- イ 見事な船体を見て、本来は意思を持っていないはずの船が、自ら航海に出ようとすると船に出来上がったように感じられたということ。
- ウ 完成度の高い船の様子を目の前にして満足したが、船は自ら航海することによってはじめて船として仕上がるのだと改めて確認したということ。

- エ 想像以上に立派な船の姿を見て、思わず自分たちが自ら作りあげたのではなく、船の意思みちびに導かれていたのだと感じたということ。

問四 ――線部③「ニライカナイ号」と命名した理由を、本文中の言葉

を用いて説明しなさい。

問五 ——線部④「互いに顔を見合わせた」とありますが、このときの二人の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア お互いの健闘をたたえ、信頼を深め合おうとしている。
- イ つらい作業を終え、互いに疲れを感じ始めている。
- ウ 予想外な事態に直面し、不安やあせりを感じている。
- エ 相手の変化を見逃すまいと、視線をそらさずにいる。

問六 ——線部⑤「ましてや竹ちゃんは、なおさらだった」とありますが、その理由を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を、指示された字数で本文中からぬき出して答えなさい。

- 「僕」でさえ（ ） 1 十一字）のに、竹ちゃんは
- （ ） 2 十字）を経験したから。

問七 ——線部⑥「風が発発を促し、空が手招きする」とありますが、このような表現のしかたを何といいますか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法
- イ 倒置法
- ウ 直喩
- エ 反復

問八 X に当てはまる言葉として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の力を信じて出航するかどうか
- イ 竹ちゃんの努力を無駄にするかどうか
- ウ ヨナ爺とヨナ婆を裏切れるかどうか
- エ ニライカナイの名を変えるかどうか

問九 ——線部⑦「互いに強く頷き合って」とありますが、このときの二人の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たちが最初にかかげた目標を必ず達成しようとか確め合っている。
- イ 実際にヨットを操縦できるかどうかという不安をふりはらおうとはげまし合っている。
- ウ これから進む道は違ってもこの夏休みの出来事を忘れまいと互いに心を決めている。
- エ 自分たちが努力を重ねて大きな成果をあげることができたので満足している。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

コロンブスが西インド諸島を発見して以来、新大陸に入ったヨーロッパ人は新しい作物を本国に持ち帰りました。ジャガイモは、一五七〇年から八〇年代にかけてスペインとイングランドに入ったとされています。スペインに入ったジャガイモは、イタリアを経由してヨーロッパ大陸の国々に知られるようになりました。またイングランドに入ったジャガイモはスコットランドからアイルランドにまで行きわたりました。ジャガイモは、今でこそ私たちになじみのある作物ですが、当時の人たちにとっては、その形が大変、奇怪なものと映ったようであり、家畜のえさにするくらい用途しか与えられませんでした。

この当時のヨーロッパは戦争が相次ぎ、一七世紀に入って三〇年戦争（一六一八―一四八）を経験したロシアでは、人口が半分以下に激減するなど国土は、^{※1} 疲弊の一途をたどっていました。当然、農業生産も落ち、ききんが人々を襲いました。こうした状況の中で、ジャガイモの高い生産力が注目をあびるようになったのです。ジャガイモは、いろいろな作物の中でも単位土地面積あたりの^{※2} 乾物生産量が大きい作物です。また収穫部分であるいもが地下にあるため、冷気が襲ってきても冷害を受けにくいのです。さらに、^① 大きないもを種として使うために

生育が早く、一〇〇日足らずで収穫できてしまいます。こうした理由のために、気候不順による凶作時にも生育する作物、すなわち「救荒作物」として重要視されるようになり、ヨーロッパ全土に広がったのです。

特に、アイルランドは、農家の土地が狭く、貧しかったことから、生産力の高いジャガイモは急速に栽培を広がりました。A、アイルランドは、ジャガイモの生育期である春から夏にかけての気温が比較的低

く、ジャガイモの生産に適していたことも、ジャガイモが急激に広がったもう一つの理由です。さらに、ジャガイモはビタミンCを含みます。また、収穫したいもは比較的長期間の貯蔵に耐え、冬の間の生鮮食品としての機能も果たします。こうしたことから、ジャガイモはヨーロッパの各地域に急速に広まりました。

しかし、一九世紀の半ばに、カビの一種によって伝染するジャガイモの病気がヨーロッパで大発生しました。農地の多くをあまりにもたくさんジャガイモ栽培に向けていたアイルランドは大ききんに陥り、人口の約五分の一にあたる一六〇万人にも及ぶ人々が飢えや病気で死んだり、アメリカに移住したと伝えられています。アイルランド系アメリカ人社会はこうして作られたのです。移住したアイルランド人は、アメリカでもジャガイモを作り始めました。アメリカではジャガイモのことをアイリッシュポテトといいます。それは、^② こうした歴史的事実に基づいているのです。

このように、作物の病気は激発して、時には歴史を変えてしまうほどの大きな影響を人間に与えます。特にジャガイモでは、病気の激発が^{※3} 顕著でした。ジャガイモでは収穫したいもを種いもとして使うので、親から子へ、さらに孫へと遺伝的に全く同じ形質が伝わります。もし、あるいもが病気に弱い系統であったとすると、病気が発生した場合大流行して、それらはいっせいに病気にたおれてしまうのです。

アメリカでは、ヨーロッパで起こったことにこりて、病気に強い品種の育成に取りかかりました。そして病気に強い品種とはいえませんが、病気の流行を防止することができますというところで、^③ 間接的には病気に強い品種の育成に成功しました。それは、生育が早く、収穫までの日数が極端に短い「極早生」の品種です。

ジャガイモの病気は夏の高温・高湿によって発生します。一九世紀半ばにアイルランドで起こったジャガイモの病気の大流行も、アイルランドの夏が異常な高温と高湿に見舞われたことが原因でした。したがって、夏真っ盛りになる前に収穫してしまえる極早生品種は、病気にかかる確率が小さいため、結局は病気にかからない品種ということができるとです。そのジャガイモは「アーリーローズ」とよばれ、現在のジャガイモ品種の基本となっています。さらに、一八七六年、アメリカでこのアーリーローズ個体群の中から、花ともいもの色が違う突然変異系統が分離され、ここから「アイリッシュ・コブラー」という品種ができました。この品種は、明治四〇年、川田龍吉という函館在住の男爵によってわが国に導入され、現在でも北海道で「男爵いも」として栽培されています。

60

このように、ジャガイモには常に病気の大発生という危険があるので、イネやコムギなどの穀類や、ダイズやアズキなどのまめ類では、種子をまいて栽培が始まります。通常、種子は乾燥しているため病気の原因になる細菌、カビ、ウイルスなどが繁殖しにくい状態にあります。もちろん、種子がそうした病原性の微生物に汚染されている場合もあるので、殺菌剤で消毒します。B、いもの栽培では、生のいもを種いもとして使わざるをえません。水分をたくさん含んだいもには、病原性の微生物がたくさん宿ることができます。さらに、いもの内部まで消毒することは難しいのです。この危険性を避けるには、病原性の微生物に汚染されていない種いもを使うことです。それはどうしたら手に入ることができるのでしょうか。

65

ジャガイモの茎の先端には、「生長点」とよばれる小さな部分があります。生長点では細胞が盛んに分裂しています。このように細胞分裂が

70

盛んである部分には、ウイルスが寄生しにくいことがわかっています。C、この生長点を切り出し、シャーレの中に寒天で作った培地を作って、無菌的に組織培養します。植物は「分化全能性」という性質をもっているため、生長点の細胞から完全な植物体を得ることができます。そうしてできた無菌的な個体を畑で増やし、農家にウイルスにおかされていない種いもを大量に供給できるようになったのです。

(石井龍一『役に立つ植物の話』)

*作問の都合上、改変した部分があります。

75

- ※1 疲弊……………疲れ、弱ること。
- ※2 乾物生産量……………作物の中の、水分を除いた量。
- ※3 顕著……………きわだって目につくこと。
- ※4 男爵……………旧憲法の時代の貴族の階級の一つ。
- ※5 培地……………動植物の培養に使用する物質。
- ※6 分化全能性……………体の一つの細胞から完全な植物個体を得ることができる性質。

問一 A C に当てはまる言葉を次の中からそれぞれ選

び、記号で答えなさい。

- ア あるいは イ しかし ウ そこで
- エ なぜなら オ また

問二 — 線部①「大きないもを種として使うために生育が早く、一〇〇日足らずで収穫できてしまいます。」について後の問いに答えなさい。

1 「生育が早く収穫でき」ることはジャガイモが「救荒作物」として重要視されるようになった理由の一つです。これ以外の理由を本文中から二つ探し、「こと。」につながるように、それぞれ二十字以内でぬき出して書きなさい。

2 次の文は「いもを種として使う」ことの短所について説明したものです。() に当てはまる語句を、指示された字数で本文中からぬき出して書きなさい。

親から子孫へと() a 十字()が伝わるので、() b 五字()
性質も遺伝し、病気が発生した場合、() c 十五字()。

問三 — 線部②「こうした歴史的事実」とはどんなことを指していますか。本文中の言葉を用いて、五十字以内でまとめて書きなさい。

問四 — 線部③「間接的には病気に強い品種」とはどういうものですか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 病気になりにくい寒い季節に栽培できる品種。
- イ 病気にかかっても味や品質が落ちない品種。
- ウ 病気に対する抵抗力が強められた品種。
- エ 病気が発生しやすい時期になる前に収穫できる品種。

問五 — 線部④「この危険性」とは何を指していますか。本文中から「危険性」につながるように十字以内でぬき出して書きなさい。

問六 次の中から、本文の内容に合っているものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア ジャガイモは、西インド諸島を発見したコロンブスがヨーロッパに持ち帰って広めた。
- イ ジャガイモは生産力が高く、長期間の貯蔵に耐えるので世界全域で栽培されている。
- ウ 水分を含んだものは、乾燥しているものより病原性の微生物が繁殖しやすい。
- エ 「男爵いも」は、北海道でできた「アイリッシュ・コプラ」という品種が改良されたものである。
- オ 生長点のように細胞分裂が盛んな部分には、ウイルスが寄生しにくい。

三

①～⑳の――線部のうち、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直して答えなさい。

- ① 車がコシヨウする。
- ② 条約のチヨウイン式。
- ③ 最大キボの大会。
- ④ 洋服のネフダを確かめる。
- ⑤ シキュウお集まり下さい。
- ⑥ 核兵器カクサンの防止。
- ⑦ チュウコクを耳に入れない。
- ⑧ 詩をロウドクする。
- ⑨ 男女ビョウドウの社会。
- ⑩ 限りあるシゲンを大切にする。
- ⑪ 神仏をオガむ。
- ⑫ 会社にツトめる。
- ⑬ 急に雨がふる。
- ⑭ 友達の失敗をユルす。
- ⑮ 説明をハブく。
- ⑯ もめごとを公平に裁く。
- ⑰ 友達の家を訪ねる。
- ⑱ 火事を防ぐ。
- ⑲ 果物が傷む。
- ⑳ 進歩が著しい。

四

次の①～⑩の慣用句が、後の（ ）内の意味になるように、
□内に当てはまる体の一部分の漢字を答えなさい。

- ① □ が広い。(知り合いが多くいる)
- ② □ を並べる。(同じ力をもつ)
- ③ □ がたたない。(かなわない)
- ④ □ を長くする。(待ちこがれる)
- ⑤ □ を引く。(かかわるのをやめる)
- ⑥ □ が折れる。(面倒である)
- ⑦ □ を引っぱる。(他人の成功のじゃまをする)
- ⑧ □ をまく。(おどろいて感心する)
- ⑨ □ をあかす。(だしぬいてあつと言わせる)
- ⑩ □ におえない。(もてあます)